

いしかわの遺跡

No.
51
2016.3.18

旧邑知瀉に面した 古墳時代～室町時代の集落



調査区中央部下層全景

酒井バンドウマエ遺跡は、羽咋市北東部の酒井町地内に位置します。一般国道159号羽咋道路の建設に先立ち、本年度から発掘調査を開始しました。遺跡は碁石ヶ峰山麓と旧邑知瀉の間に発達した小扇状地に立地しています。鎌倉時代から室町時代の集落からなる上層面と、古墳時代から平安時代の集落からなる下層面を確認しました。調査区中央部下層で確認された川跡から鋤や田下駄などの農具や、漁で使う土錘が発見され、集落の人々が農業や漁業を営んでいたことがわかりました。



川跡から出土した鋤の未完成品

公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477

FAX 076-229-3731

E-mail ● mail@ishikawa-maibun.or.jp ホームページ ● 「いしかわの遺跡」で検索 (<http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>)



ひとつはり いせき こまつし
一針C遺跡 (小松市)

一針C遺跡は、小松市北部を流れる梯川中流域右岸の沖積平野に立置する集落遺跡で本年度は平成 25, 26 年度調査区の西隣を調査しました。

上層では古墳時代前期から中世の掘立柱建物の柱穴、竪穴状遺構、井戸、土坑、溝などを確認しました。昨年度は少なかった古墳時代前期の土器が遺構からまとも出土し、同じ時期の勾玉や石川県では珍しい石製合子の底部も見つかりました。また柱穴から平安時代の軒平瓦の破片が出土しました。井戸については異なる構造の井戸枠が複数確認でき、井戸底に網代を敷いて浄水機能を持たせたものも見つかりました。中世の竪穴状遺構には用排水に用いられたと考えられる溝が繋がっており、土砂の堆積状況からも貯水施設の可能性が考えられます。

下層では昨年度も確認された弥生時代中期後半から終末期の掘立柱建物の柱穴、平地式建物の土坑墓とそれに伴う土器、製作途中の緑色凝灰岩製管玉やその破片、石鏃、石包丁など多くの遺構・遺物が見つかりました。このことから環濠の西側にも当時の集落の広がりを見て取れます。



古墳時代前期～室町時代の井戸、柱穴、竪穴状遺構



平安時代の網代敷、横板組みの井戸



弥生時代の土坑墓



平安時代の軒平瓦

H27
発掘調査

新庄カキノキダ遺跡（野々市市）

遺跡は、野々市市域南東部の住宅地内に位置し、白山を源流とする一級河川手取川により形成された手取川扇状地の扇央部東端に立地しています。

発掘調査は、市域東側を南北に貫流する高橋川の広域河川改修工事に伴い、河川左岸部を調査対象として平成26年度から実施しています。昨年度の調査では、縄文時代晩期の^{たてあな}竪穴建物や、平安時代中頃の^{ほったてしらたてもの}掘立柱建物柱穴、区画溝などを確認しました。

今回の調査では、調査区北側から弥生時代後期の竪穴建物、土坑などが見つかりました。竪穴建物は、長辺で8mを測る大規模なもので、建物内で柱穴2基と貯蔵穴が確認できました。

調査区南側では、平安時代後期の掘立柱建物や小穴とともに、これらと部分的に重複して東西方向に掘られた多数の耕作溝を確認しました。平安時代後期に周辺で生活を営んだ人々が、居住域の隣接地を畠として利用していたことが分かります。

さらに、昨年度調査区と隣接する調査区中央付近からは、縄文時代後期の土器が出土しており、遺跡の開始時期が縄文時代後期まで^{さかのぼ}遡ることが明らかとなりました。

2ヶ年におよぶ発掘調査の結果、時代の移り変わりと共に変化する扇状地における土地利用の一端を知るという重要な成果を得ることができました。



遺跡の遠景（北から）



弥生時代後期の竪穴建物（北から）



平安時代後期の掘立柱建物（北から）



縄文時代後期の土器出土状況（西から）



北吉田ノシロタ遺跡 (志賀町)

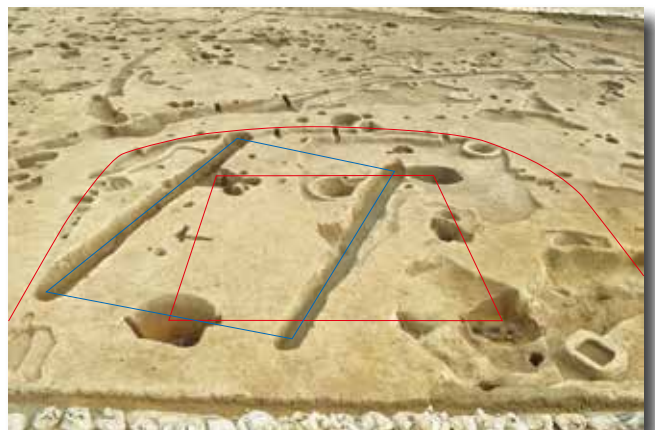
北吉田ノシロタ遺跡は羽咋郡志賀町北吉田地内に位置する弥生時代から中世にかけての集落遺跡です。米町川の河川改修事業に伴い、平成 25, 26 年度に引き続き発掘調査を実施しました。

本年度の調査区からは、弥生時代終末期から古墳時代前期の土器を中心に大量の遺物が出土しました。遺構では、ほぼ全域から掘り方が布掘りの形態のものを含む掘立柱建物や竪穴建物を十数棟確認し、さらに多数の土坑、小穴、溝なども見つかりました。建物跡では柱の著しい沈下が観察されました。掘立柱建物は、まず地面に穴を掘ってから柱を据えますが、その底面よりも柱根が沈み込んでいたことから、当時の地盤がかなり軟弱であったことが分かりました。その一方で、建物を維持させるために柱の沈下を防ぐ工夫も多数見られました。柱の下に敷かれていた礎板はその一例ですが、出土した礎板の中でも大きなものは全長が約 80cm もありました。また別の例では、柱の下端と礎板に切り込みを入れた渡りあご仕口で組むことで柱のずれや沈下を防いでいました。

当時、このような軟弱地盤の低地にもかかわらずこの地に建物を構えた背景に、生産や流通面などどのような利点があったのでしょうか。



遺跡の遠景 (米町川上流から)



掘り方が布掘りの掘立柱建物 (青線) と竪穴建物 (赤線)



沈下した柱



大型の礎板と柱根

H 27
情報
発信

平成 27 年度講座考古学最前線 「都と日本海をつなぐもの 近江・琵琶湖」

平成 27 年 12 月 5 日 (土)、石川県立美術館ホールを会場に講演会が開催されました。はじめに当センターの川畑誠が、北加賀の古代水上交通と題して、石川県の地形から水上交通の利便性の高さを示し、発掘調査で県内から出土した船や関連した木製品などを紹介しました。水陸交通の結節点にあつて地方の役所としての機能を持っていた津幡町加茂遺跡や、古代の大野湊周辺に立地する戸水C遺跡などの事例を挙げながら、船を使って物資や人が行き交った様子が報告されました。参加者からは、「水上交通の変遷や船の構造がよくわかった」などの感想が寄せられました。

その後、滋賀県立琵琶湖博物館の用田政晴さんを講師に迎え、琵琶湖の湖上交通の歴史を、周辺遺跡の紹介とともに講演していただきました。縄文時代の丸木舟や弥生時代の構造船などの出土品をはじめ、湖周辺に古墳が築かれた意味、琵琶湖博物館に復元展示されている丸子船の船大工にまつわるお話などに、参加者の皆さんからは「歴史の動きと“水”の結びつきを感じた」「琵琶湖周辺を回ってみたい」などの感想が聞かれました。中でも、塩津港遺跡の最新の発掘調査成果の紹介は大変好評でした。

来場者の中には、琵琶湖が大好き、琵琶湖に関心がある、都と北陸を結ぶ琵琶湖のことを知りたい、といった動機を持ち参加された方も多く、滋賀県や琵琶湖を身近に感じたり、実際に訪れたことのある方も多いことがアンケート結果に表れていました。

「講座 考古学最前線」は最新の研究成果について、わかりやすく講演していただく催しです。今後受講したいテーマを挙げてもらったところ、古代の交易、ロシアや朝鮮半島との交流、北前船など、交易や交流に関連する分野や縄文時代の漆、縄文時代の生活、チカモリ遺跡の話、日本人の起源、土偶など、古い時代に関するものが見られました。来年度も興味深いテーマを取り上げ、みなさまにお届けしたいと思います。



会場の様子



講演の様子



「古代の独楽づくり」

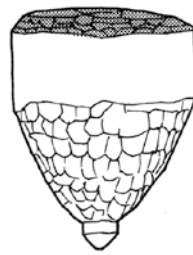
平成 28 年 1 月 4 日 (月) から 17 日 (日) まで「古代の独楽づくり」を行い、期間中約 60 名が参加しました。体験では古代などに見られた「叩き独楽」を製作し、それを回して遊ぶことで、「遊び」の歴史と文化について理解を深めていただきました。

独楽の歴史は古く、日本最古の出土品は約 1,300 年前の都である藤原京跡 (奈良県橿原市) から出土したものです。これは広葉樹の心持材を使用し、一端を平坦に、もう一端を円錐形に削って成形しています。棒に布などを付けた鞭を使って回転させる「叩き独楽」と呼ばれるものです。石川県内では羽咋市大町ダイジングウ遺跡で室町時代頃のものが出土しています。

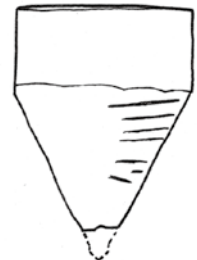
体験では、まず円柱形の材木の一端を、紙やすりで削って尖らせます。この時、先端が中心軸に一致するように均等に削ることが重要です。独楽の製作後、布の鞭を製作します。完成したらいよいよ回

す体験です。最初はうまく回らなかった独楽も、次第に叩き方のコツを覚えると、長く回せるようになります。家族で回し合う風景が見られ、新年を迎えた館内に歓声が響いていました。

出土した独楽



奈良県 藤原宮跡 (飛鳥時代)



奈良県 平城京跡 (奈良時代)

『木器集成図録 近畿古代篇』
1985 奈良国立文化財研究所より



みんなで楽しく作っています



お父さんも熱が入ります



鞭に使う布は「三つ編み」で仕上げます



製作見本



誰が上手かな

冬のものづくり体験「剣づくり・鏡づくり」

冬季の体験として「剣づくり」（1月24日）、「鏡づくり」（2月14日）を行いました。

弥生時代、錫を含んだ銅の合金で作った青銅器やその製造技術が伝わり、日本でも銅剣、銅鏡、銅鐸などの生産が始まりました。当時、青銅器は祭祀や権威を示す器物として主に使われました。青銅器は鑄造によって成形され、その色は含まれる錫の割合によって黄金色から白銀色に変わります。ガイダンスでは、実物や図を見ながら、剣の鑄や鏡の鈕などの部位の名前や機能について理解を深めました。

次に職員が鑄造過程を模擬的に実演しました。青銅は1,200℃以上の高温で溶融させる必要があつて危険なため、錫を主体とする低融点合金を溶かし

て鑄型に注ぎ、冷え固まった後に湯口や鑄ばりを切断します。研磨作業では、荒砥、中砥、仕上げ砥と言う砥石の使い分けと石の目に沿った研ぎ方が必要です。

そしていよいよ参加者が体験作業を始めます。剣は長さ16cmの中細形銅剣、鏡は直径5.5cm、鏡のモデルは羽咋市四柳白山下遺跡で出土した古墳時代の珠文鏡です。金鋸で湯口などを切断します。次の研磨作業では、水をつけた砥石に縦横にこすります。表面を平らにした後、輝くように仕上げるために耐水ペーパーや研磨剤を使用しました。最後に鏡に紐を通します。根気よく、ていねいな研磨作業によって光り輝く剣や鏡が誕生しました。

剣づくり



剣の歴史や特徴を学びます



鏡づくり



古代の鏡を学びます



鑄造の実演



金鋸で切断



細部を滑らかに



研磨剤で光沢を出す



砥石で磨きます



会員制情報提供サービス「まいぶん友の会」

「まいぶん友の会」は、センターが実施する講座や講演会、発掘調査の現地説明会などの案内や資料を「まいぶん情報」として郵送する会員制のサービスです。年度毎に会員を募集する形で、平成11年度から実施しています。

近年、会員数は増加傾向にあり、平成27年度は、202名の方が入会しています。会員構成は男性が8割強を占めており、発掘調査に参加した事を契機に入会する方が多いようです。居住地は金沢市、小松市、白山市在住の方が6割強となっています。また、年齢は61歳以上が8割近くを占めており、埋蔵文化財や考古学に興味を持つ世代と、地域の歴史研究や生涯学習などに関心を寄せる方の年齢層を反映したものと思われます。

昨年実施した漆町遺跡(小松市)の発掘調査現地説明会では160名、庄・西島遺跡(加賀市)でも70名と、これまで以上に多くの参加者があり、会員の方々も多く見受けられました。この「まいぶん友の会」は、埋蔵文化財の保存と活用の両面で大切な役割を果たしていることから、今後とも数多くの方々

に入会していただき、発掘調査等の情報発信に努めていきます。

なお、友の会の詳細と入会申込書は、当センターホームページ「いしかわの遺跡」に掲載しております。

公財団法人 石川県埋蔵文化財センター 会員制情報提供サービス

まいぶん友の会

平成28年度 会員募集

会員になると...

- センターが実施する発掘や講座など各種の「まいぶん情報」が届きます。
 - 講座・報告会など催し物の案内
 - 考古学講座などの配付資料(年数回)
 - 広報誌『いしかわの遺跡』(年数回)
 - 現地説明会の開催案内・説明会資料

応募方法

申込書に必要事項を記入の上、会費を添えてお申し込みください。

- 受付窓口 会費は切手または現金で(センター)
- 郵送 会費は切手で

■ どなたでも入会できます。

■ 会費 年額 1000円
※ 入会手続き後の返金はできません。

■ 会員の期間
入会の日から平成29年3月まで。
※ 随時入会受付します。ただし年度途中の入会でも、会費は同額です。

公財団法人 石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336 金沢市中戸町18-1
Tel 076-229-4477
Email maibun@ishikawamaibun.or.jp

「まいぶん友の会」募集チラシ

埋蔵文化財センターの情報発信

埋蔵文化財センターホームページ「いしかわの遺跡」のキーワードで検索して下さい。

「金屋」における鉄鋼生産を確認

埋蔵文化財センター 石川県埋蔵文化財センター
Ishikawa Archaeological Foundation
〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番1号 TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731
E-mail maibun@ishikawamaibun.or.jp

石川県埋蔵文化財情報

第34号

巻頭紙(一対二巻) 北谷田ノコテ遺跡、矢田跡遺跡

平成28年度下半期の発掘調査から

発掘調査報告

中ノワケミナモト遺跡(輪島市)	(4)
古柳・河内遺跡(七尾市)	(6)
北谷田ノコテ遺跡(志賀町)	(8)
二宮マヤシマ遺跡(志賀町)	(10)
細尾跡遺跡(守はく市)	(11)
稲久遺跡(金沢市)	(12)
伊波ノコト遺跡(金沢市)	(13)
安代町下野遺跡(本多氏別荘跡地区)(金沢市)	(14)
安代町下野遺跡(東条六郎寺跡地区)(金沢市)	(15)
三日月イシヤシマ遺跡(野々原市・白山市)	(17)
一対二巻(小松市)	(20)
藤原遺跡(小松市)	(24)
矢田跡遺跡(小松市)	(26)
加茂モリノカウラ遺跡(加賀市)	(28)
平成28年度下半期の発掘調査報告	(30)

調査報告

発掘調査報告書全体の目次について 大塚 隆一 (32)

巻頭 古柳・河内遺跡の発掘調査の概況について 加藤 誠一 (42)

2015年10月
公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター

埋文センターや石川県の遺跡をインターネット上で紹介する総合サイト。「いしかわの遺跡」のキーワードで検索して下さい。

埋文センターの広報誌。発掘調査の様子や、普及啓発行事を紹介。

埋文センターが行う発掘調査の概要や、調査研究活動の成果を掲載。

ホームページ「いしかわの遺跡」からすべてダウンロードできます。